

リ・ファッションコンテスト

不用な服生かす工夫

環境月間の六月のイベントとして、不用な服を材料に新しい服を作り出すリ・ファッションコンテストの公開審査が、三十日までウェブ投票で行われている。二十四～二十八日には新宿マルイアネックス二階(東京都新宿区)で店頭投票も実施。主催する日本リ・ファッション協会(中野区)は東日本大震災を受け、「これまででの大量生産、消費、廃棄の生活スタイルが見直されるきっかけにもなれば」としている。

(松村裕子)

30日までウェブ投票



ホームページでの投票が始まったリ・ファッションコンテストをPRする鈴木代表理事＝東京都中野区で

し、昨年から埼玉県吉川市の倉庫に集めていた。そのまま寄贈したり、コンテストに利用したりしており、震災後は、被災地に送るなどの支援活動も行っている。

コンテストは活動のPRのため昨年からは、制作、投票と、大勢の人が参加できる仕組みで、昨年は二十九点が出品され、ウェブと店頭で計二千近い投票があった。

今年「つなげる」のテーマ、技巧性を競うハンドワーク、フリーの三部門に、書類審査を通った計十七点が出品された。材料用を集めた衣料を被災地に送ったため急ぎよ、材料は出品者の自前調達に。震災で創作意欲が減退した人もおり、応募数も減った。

テーマは震災前に考えたが、震災でクロージアップされた人の絆に通じる。着物を使い、福島のフラガールをイメージしたアロハ風の子供服、ネクタイを材料に作った男性の励みになるウェア、節電が必要な夏を涼しく過ごそうと、浴衣をリメイクした部屋着など、テーマ部門に限らず、震災と絡めた作品が目立つ。

震災絡めた作品目立つ

リ・ファッションと会を実現しようと発足は、衣類に限らず飲食、住宅も含めた生活スタイルの見直し。協会は二〇〇九年、この考えを基に、循環型社

会を実現しようと発足した。会員は全国のクリーニング、物流、飲食関連企業など二百八十近い団体、個人。家庭で不用な衣類を回収

のテーマ、技巧性を競うハンドワーク、フリーの三部門に、書類審査を通った計十七点が出品された。材料用を集めた衣料を被災地に送ったため急ぎよ、材料は出品者の自前調達に。震災で創作意欲が減退した人もおり、応募数も減った。

テーマは震災前に考えたが、震災でクロージアップされた人の絆に通じる。着物を使い、福島のフラガールをイメージしたアロハ風の子供服、ネクタイを材料に作った男性の励みになるウェア、節電が必要な夏を涼しく過ごそうと、浴衣をリメイクした部屋着など、テーマ部門に限らず、震災と絡めた作品が目立つ。

協会の鈴木純子代表理事(四五)は「コンテストを通じ、リ・ファッションの考え方を広めたい。作品を見て、あつものを生かす工夫を考えてほしい」と投票を呼び掛けている。